

貨物会社
回答

「1.80箇月分、7月7日支払い」



低額回答は社員・家族の期待を裏切るもの!

「物価上昇分⇒賃上げ」「業績⇒期末手当」との交渉経緯がある。

2025決算は5期ぶりの黒字へ回復、社会的役割を担う社員の生活向上を!

6月16日、本部は2026年度「夏季手当」についての回答を貨物会社から受けた。

席上本部は、「生活必需品の相次ぐ値上げで生活は厳しさを増している中、回答は物価高騰に追いつかず、生活改善には程遠いもので、国労要求からも大きく乖離する低額回答に社員と家族は落胆しかない。この間、自然災害への対応や不正作業により失墜した貨物会社の信頼回復のため、昼夜を問わず努力を続けてきた社員に何ら報いることなく、経営課題を最優先する姿勢は社員に責任転嫁するものでしかない」として

① 経営課題を前面に低額回答ありきの全く誠意の見られないものでしかない。② 厳しい経営状況である中においても、設備投資は計画通り進めるとしていることから、社員に対しても誠意ある回答で応え、日々の労苦に報い、将来展望を示すことが求められている。③ 環境問題をはじめとしたモデルシフトの流れが強まり、これまでにない貨物鉄道輸送への追い風がある中で「公共輸送機関」の使命として安全輸送に努力する社員感情を逆撫でするものでしかない。④ 期末手当は大事な「生活給」であり、社員の生活に責任を持つのが会社の責務であることから、貨物会社で働き続けられる希望を示すことが求められており、若年社員の定着を目指す会社主張を自ら否定する回答である。⑤ これまで国労が指摘し続けている分割民営化からの構造矛盾を放置し、数々の根幹問題を先送りし、社員犠牲の経営を続けている経営陣の責任は重大である。と厳重に抗議を行った。

これに対して会社は「最終判断した中身であり最終回答である」との見解に終始した。

最後に本部は、「本日の夏季手当の低額回答は、社員と家族の生活実態を全く無視した一方的な姿勢であり、到底認められるものではなく極めて不満に回答である」と重ねて抗議し、取り扱いについては「持ち帰り」した。

経営陣はこれまでの社員犠牲の姿勢を改め、社員の生活を最優先に考えるべきである!



今回も経営課題を理由とする低額回答!
社員・家族にも生活がある!
経営陣はその責務を果たすべきだ!

「低額回答」に対して抗議と要請行動を!
※6月23日(火)正午まで